

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙「みらい」
NO. 4300
22年11月15日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

おはようございます。

関東支社管内で 放棄隠匿事案

今年度2件目の放棄隠
匿事案が発生しました。
概要は40代の男性社
員が2018年4月ごろ
から2022年6月ごろ
までアパートの空室の郵
便受けなど複数の場所に
郵便物(タウンメール、タ
ウンプラス)を隠し配達
しなかったというもので
す。

放棄隠匿を発生させる
理由の一つに時間内に配
達できないことが挙げら
れます。社員間では少な
からず配達するスピード
に差があります。この差
は努力などにより縮める
ことは出来るかもしれま
せんが、同じになること
はありません。したがっ
て、決められた時間内に

配達する事ができる人と
できない人がいます。
職場では時間内に配達
できる社員を基本に「1
00%未満の業務量＝定
時」という暗黙のルール
があり、超勤には理由が
必要との考えがあります。
以前も未来に掲載しま
したが、出勤システム
で超勤の打刻を行う時に
課長代理以上の役職者か
ら超勤理由を聞かれます。
物増やゆうパック応援、
また、営業などの理由を
申告できれば良いかもしれ
ませんが、100%未
満の業務量の時に超勤と
なった場合にどう申告し
てよいかわからない社員
もいるはずです。



「配達が遅いから超勤
になりました」とは言い
にくいし、プライドもあ
り言いたくもないでしょ
う。その超勤理由を求め
ることが社員にプレッ
シャーを与えていることに

そろそろ気付くべきでは
ないでしょうか？
今回の放棄隠匿を発生
させた社員は「配達が遅
いと思われなくなかつ
た」と証言しています。



今の職場は超勤＝悪と
なっていて自分のペース
で配達できない状況にな
っています。それが休憩
時間の未取得などのサー
ビス残業にも繋がってい
ます。

勤務時間を守り、自分
のペースで配達できる職
場をつくるのが放棄隠
匿だけでなくあらゆる事
故防止にも繋がる最善策
ではないでしょうか？

今年の年賀はが き繁忙は？

11月も中旬になりま
した。数年前まで、年賀
はがきの販売が始まって
いるこの時期は1年で最

も忙しく、連日の超勤で
年賀はがき販売に取り組
んでいました。

また、一昔まではお歳
暮ゆうパックに関して言
えば、今ほど引き受け個
数はなく、年末年始繁忙
と言えば年賀はがき繁忙
でした。

一昨年から自局エリア
外の販売が原則禁止とな
り、昨年からWEB年
賀の廃止、年賀印刷カタ
ログも自局エリア外は販
売禁止となりました。当
たり前に行われてきた立
替払いによる販売入金や、
年賀はがきを自宅に持ち
帰るなどのコンプライア
ンス違反は見かけなくな
りました。



その年賀はがきですが
2023年用のお年玉付
き年賀はがきの当初発行
枚数は前年比約10%減
の約16億4千万枚とな
っています。10年前の
2013年用年賀はがき

の発行枚数は35億87
30万枚だったのでここ
10年で半分以下となっ
ています。

発行枚数の減少の影響
もあつてか、例年であれ
ば各部1名ずつ年賀はが
きの販売準備のためのア
ルバイトを雇用して4階
の一室で年賀はがきの授
受を行っていました。が、
今年アルバイトを雇用
せず、授受も3階の集配
部で行われています。

人口が減少しているの
で年賀はがきも減るのは
当たり前かもしれませんが、
若い世代を中心に年
賀はがきを出さない人が
増えてきています。

ここ数年、年賀はがき
繁忙での超勤数は年々少
なくなり、年賀はがきの
減少を実感していました
が、今年については廃休な
しで年繁を乗り切るとの
噂も耳にするほどです。

自爆営業という言葉を生
み出す程、異常な販売
指標を設定してきた年賀
はがき販売ですが、正常
な販売スタイルとなり、
今後は年賀はがき繁忙と
いう言葉も消えていくか
もしれません。



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望を全員の正社員化を。

ゆげ、均等待遇、なげんき差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利したぞ！